

### 3 . エコツーリズム推進の利点

#### 1) 地域経済への貢献

スモール・ビジネスが起こせる。

エコツーリズムにより、滞留時間の増大、ガイド収入の発生、季節変動の緩和、リピーターの増加、来訪者数の増加などによる直接的な経済効果が発揮される。

また、地域のお産業への波及効果、これにともなう雇用機会の増大が期待できる。

## 2) 地域イメージや住民意識の向上

ツアープログラム作成時に実施する地域資源の発掘作業を通じた地域魅力の再発見、来訪者との交流による住民の意識変革が期待できる。

また、エコツーリズムの推進は、従来多く見られた施設開発中心の誘客ではなく、ソフトづくりによる観光開発、環境を保全しながら活用であることから地域イメージの向上につながる。



プログラムの一環として実施されたそばうち体験では、講師は町内在住の83歳のおじいさん、その補助として数名の主婦が協力する。いずれも、有料での手伝い。都市部の子供との会話を楽しむとともに、人と接するために身だしなみにも気を配るようになったという。  
(新潟県六日町)

### 3) ツアー参加者の意識に好影響を及ぼす

自然の中での五感を通じた体験から、ツアー参加者は新しい発見や気づき、自然に対する畏敬の念や感謝の気持ちを持つようになる。このような深い感動は、ツアー参加者に意識変革をもたらし、日常生活における行動にも、自然への関心や環境への配慮を持つようになる。

エコツアーへの参加を通して、ツアー参加者には、豊かさの実感と精神面のリフレッシュ、農山村地域における生活や産業に対する理解と共感、自然とともに生きる知恵の習得、環境保全に対する意識の芽生えなどの効果が期待できる。

#### 4) 推進地域に汎用性がある

「見る」「知る」中心の従来型の観光とは異なり、ツアープログラムの内容や楽しくて分かりやすい解説が誘客力となるため、プログラムの企画開発と人材が揃えば、全国どこでも取り組みが可能である。

## 5) 地域の自然環境や文化の保全に役立つ

計画的な土地利用、ツアー参加者への働きかけ、プログラムの工夫によって、自然環境の保全が可能である。エコツアーでは、脆弱なエリアへの立入りを制限、参加者の行動の誘導による影響の軽減、自然保護のための協力金を参加者から収受、植樹など環境回復作業への参加、資源調査の結果を保護活動とツアープログラムに活用などによる自然環境の保全が行われる。



自然保護のために1日当たりの入域者数を100人に制限。入域には都公認ガイドの同行を義務付け(東京都小笠原村)



保護地域への立入前に靴底を洗浄して種の移入を防ぐ(東京都小笠原村)



植樹を体験するプログラム(秋田県藤里町)